

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第6回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 地域協議会 会長会議の報告について（公開）
- (2) 地域活動支援事業 募集要項及び審査・採択のルールについて（公開）
- (3) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」（公開）

3 開催日時

令和元年12月3日（火） 午後6時27分から午後8時27分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、
池内幸雄、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、二野 浩、保坂真由美、
山田宏文、横尾彰平
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・ 佐藤委員を除く11人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：池内委員、尾崎委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料により説明

【山口会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし

—次第3報告（1）地域協議会 会長会議の報告について—

【山口会長】

次第3報告（1）「地域協議会 会長会議の報告について」に入る。

1 1月6日（水）に地域協議会会長会議が開かれ、私が出席してきた。

事務局に概要の説明を求める。

【堀川センター長】

4つの連絡事項について報告する。

①令和2年度地域協議会委員の改選について

- ・現委員の任期は令和2年4月28日まで。
- ・次期委員の任期が令和2年4月29日から令和6年4月28日までの4年間、三郷区の次期委員の定数は現在と同じ人数。
- ・2月上旬に公募告示、3月上旬から下旬に公募、4月26日に応募が定数を超えた場合の選任投票を予定。
- ・例年開催している活動報告会は2月中旬から3月上旬までの間で実施するよう各地域協議会で検討してほしいとのお願いがあった。

②令和2年度地域活動支援事業の概要について

- ・概要は今年度と同じ予定。
- ・昨年度行った見直し結果を参考にしながら、各地域協議会で来年度のルールを検討してほしいとのこと。

③町内会長宛文書の配布見直しに係る地域協議会だよりの取り扱いについて

- ・来年度から町内会長宛の事務文書の配布回数を月2回から1回にすることで、各地区町内会長協議会と協議している。その中で、特に全戸配布の負担が大きい地域協議会だより、社協だより、各種パンフレットを班回覧にしてほしいとの要望

が多かったため、市の共生まちづくり課から、来年度以降の地域協議会だよりを全戸配布から班回覧に変更してほしいとのお願いがあった。

- ・この件を各地域協議会で協議し、今までどおり全戸配布を望む場合は、地元の町内会長協議会と協議してもらいたいとの説明があった。

④地域協議会の見直しについて

- ・地域協議会の見直しの検討に向けて、市では現在の委員に対してアンケートを実施する予定。
- ・アンケートの結果を参考に地域協議会の見直しについて検討し、令和6年度の改選から反映する予定。

また、高田区地域協議会に出された旧師団長官舎の諮問の関係で、諮問前に広報上越で事業者を募集した件について、自治・地域振興課から連携が不十分であったことを高田区地域協議会にお詫びしたとの報告があった。今後、諮問のタイミングを逸することないように、改めて庁内で連絡を共有するとの説明があった。

その後、28区の会長が2班に分かれて意見交換を行った。

会長から補足の説明があればお願いしたい。

【山口会長】

意見交換については、A班とB班に分かれたが、私はB班になった。A班のテーマが「地域との意見交換等を通じて把握した地域課題の自主的審議へのつなげ方について」であり、アンケートを取りながら、あるいは関係団体の皆さんと協議しながら自主的審議を進めていたというのが主な内容だった。B班のテーマが「地域協議会と地域の団体等との連携・協力の促進について」で、私からは、一昨年設立した三郷まちづくり振興会について話をした。他の区では、町内会長協議会や関係団体の皆さんと話をしながらやっているとのことだった。

市からの連絡事項に関して、まず活動報告会の実施については、正副会長で相談した結果、2月27日（木）午後6時30分から、会場は三郷地区公民館で開催してはどうかとした。報告会の内容は、4年間の地域協議会での議論や研修会などの活動の報告、今年度の地域活動支援事業に採択した団体からの活動報告、来年度の地域活動支援事業の概要と委員改選についての説明を予定している。

- ・このとおり実施することを諮り、委員全員の了承を得る

来年度の地域活動支援事業のルール等の検討は、議題（１）で協議する。

来年度以降の地域協議会だよりの配布方法は、現在の全戸配布のままとするか、班回覧でよいか、本日皆さんの意見を伺い、地域協議会としての考えをまとめたい。

- ・委員に意見を求めるがなかったため、採決にて決することを諮り、委員全員の了承を得る
- ・全戸配布がよいか班回覧がよいかで採決し、班回覧とすることに決する
- ・その他、会長会議について質疑を求めるがなし

—次第４議題（１）地域活動支援事業 募集要項及び審査・採択のルールについて—

【山口会長】

次第４議題（１）「地域活動支援事業 募集要項及び審査・採択のルールについて」に入る。

本日は、来年度の地域活動支援事業のルール等の検討を行う。

事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・昨年度の全２８区の地域活動支援事業の再度の見直し状況について説明

【山口会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし
- ・来年度に向けて資料No. 1～No. 3について改善すべき点があるか意見を求めるがなし
意見がないため、正副会長案を説明する。人口減少を地域の課題として取り上げ、自主的審議事項を協議していることから、三郷区の採択方針に人口減少対策に関する事業を追加したい。昨年度、浦川原区で採択方針の優先採択事業を見直したが、それを参考に修正したらどうかと考える。

正副会長案について、委員に意見を求める。

【伊藤委員】

まだ理解できないので、もう少し詳しく説明してほしい。

【山口会長】

現在の採択方針は、資料No. 1の２ページ目にある。この中の「１ 地域活性化に

資する事業」になるかと思うが、ここに現在審議している人口減少のことについて文言を加える。その参考として、浦川原区の見直し後の優先採択事業の例も参考にしておきたいと提案している。

【伊藤委員】

そこに人口減少に関することを入れるということか。

【山口会長】

そのとおり。ただ、具体的な文言については正副会長に一任してもらいたいと考えている。

【池内委員】

「1 地域活性化に資する事業」の中に人口減少について加えるということか。

【山口会長】

協議した結果よいとなれば、あるいは「3 住民の健康と福祉の増進に資する事業」に該当するかどうか、それも含めて今後検討したい。

【尾崎委員】

文言は正副会長一任とのことだが、その検討結果は改めて諮られるのか。

【小林主任】

次回の会議で修正したものを委員に示し、この内容でよいかどうかを改めて諮らせてもらう予定である。

【尾崎委員】

できれば、ただ一言で人口減少ということではなく、浦川原区のようにより具体的な文言にしてほしい。

【山口会長】

提言があった内容を踏まえて正副会長で具体的に検討したい。

正副会長一任で内容を検討し、次回会議で報告することでよいかを諮り、委員全員の下承を得る。

【保坂副会長】

今年度の三郷タイフーンの活動など、子ども達の健全育成に取り組む事業も加えた方がよい。例えば子育て支援に関する事業など、今ある優先して採択する事業の中に当てはまるものであればよいが、子ども達の健全育成に関しても明文化された

ものもあるとよい。それについても正副会長での文言の整理の中で検討することを提案したい。

【山口会長】

保坂副会長の提案について、委員に意見を求める。

【横尾委員】

三郷タイフーンについては、三郷区の子どもが2人しかいない。今までの活動が足りないのではないかと。そして、今回購入したグラウンドコートなどは個人のものであり、全額を税金から出すべきではないのではないかと。子ども達の未来ということに関しては賛成だが、全額を負担するのはいかがかと思う。また、最近はお金ありきという感じの事業が多いように見受けられる。優先して採択する事業に「1地域活性化に資する事業」とあるが、当初は三郷区全体という大きなもので捉えていこうという話だった。その中には青少年の健全育成も属すると思うが、全額補助というのはいかがかと思う。一部を補助するという形で、他に方法があったのではないかと。しかもこれは二次募集である。この団体は他の区で提案していないのか。

【小林主任】

今年度、三郷タイフーンは三郷区だけに提案されている。

【山口会長】

横尾委員からの提案だが、既に決まったことである。今は来年度に向けた話をしているのですが、もしそれを反映するのであれば、採択基準等の見直しが必要になってくると思う。また、来年度の改選後の新委員でも話し合われる。

【保坂副会長】

三郷タイフーンのグラウンドコートは、試合の時に着るものとして支援した。個人に与えるものではないと判断して採択したのではないかと。

【竹内副会長】

それについては審査の際に提案者へ質問をしたところ、三郷タイフーンとして全てのものを維持管理していくとの回答があった。

【山口会長】

- ・青少年の健全育成に関する文言も加えること、具体的な文言は正副会長に一任することを諮り、委員全員の下承を得る

—次第4議題（2）自主的審議事項「三郷区の人口減少について」—

【山口会長】

次第4議題（2）「自主的審議事項『三郷区の人口減少について』」に入る。

本日は、11月5日（火）の委員研修で学んだことをもとに、今後の進め方について協議したい。

まずは、これまでの協議の経過を改めて振り返りたい。事務局に説明を求める。

【小林主任】

- ・資料No.4により説明

【山口会長】

次に今後の進め方についてだが、前回の会議では「委員研修の結果をもとに、魅力マップの内容や活用方法について協議する。」こととし、「現委員の任期中は協議を継続する。」ことに決まっていた。

正副会長で協議した結果、資料No.5の今後のスケジュール（案）のとおり、地域協議会で現委員の任期終了まで検討していくのがよいと考えた。

資料No.5について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

- ・資料No.5により説明

【堀川センター長】

補足する。地域協議会の仕事としては、委員の任期中はマップがどのようなものがよいかを検討していこうということが前回の会議で決まっていた。そのため、任期終了までは、どのようなものを載せたらよいかを検討してほしい。3月の提案書の作成以降については、三郷区の魅力マップ作成編集委員会で考えるべきことであり、地域協議会が指示する立場にない。資料No.5のスケジュールは、あくまでも、このような流れで進めていけばマップができるのではないかという案を示している。このように編集委員会で進めてほしいと言っているわけではない。どのように進めていくかは、編集委員会の皆様で検討していただければよい。あくまでも進め方の一例である。

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求める。

【池内委員】

公民館事業「元気の出るふるさと講座」でマップ作成と書いてあるが、これはもう完成しているのか。

【小林主任】

現在作成を進めているが、まだ完成はしていない。A3の2つ折りになるが、内容について誤りがないか確認をしているとのことである。

【池内委員】

それと地域協議会での協議と、どう違ってくるのか。

【小林主任】

これは、あくまで公民館事業の中で作成したものであり、ここからさらに追加するものもあるかと思う。また、目的も違っている。公民館事業で作成したものについては、自分達の地域の中に何があるのかを調べ、それをマップにしている。地域協議会の大きな目的は、魅力マップを作成して内外に発信することで地域の活性化を目指すことである。その目的から、どのようなマップがよいか、公民館事業で作成したマップも参考にして、改めて検討していただきたい。

【池内委員】

よく分からない。同じものを2つ作ってどうするのか。

【山口会長】

編集委員会の立ち上げが少し早かったと反省している。地域協議会では、人口減少対策の延長線として、三郷区をPRするためにマップを作ろうという話だった。その中で、公民館事業でも同じことをやっているということで、一緒によりよいものを作ったらどうかと考えた。当初は任期中の3月までにマップを完成させ、地域活動支援事業に提案したらよいと考えていたが、そうではなく、地域協議会ではマップの骨子を作り、具体的な内容は編集委員会で検討して事業提案してもらいたい。編集委員会は、公民館事業のマップが完成した後、来年3月か4月頃に立ち上げればよかったが、それより先に立ち上げてしまった。公民館事業のマップは、一部修正があるがほぼ完成しているので、それを参考にしながら、先日地域協議会委員が

調べた魅力をもとに検討していきたいと提案している。

【横尾委員】

私も公民館事業のマップづくりに参画している。公民館事業でのマップづくりは、三郷区の皆さんがどの程度地域のことを知っているのかを把握するために、集まった参加者がこの地区にはこのようなものがあると皆で共同作業したことに意義がある。このマップを使って何かすることが目的ではない。地域協議会としては、人口減少対策で三郷区に人を集めようという目的があり、公民館事業とは大きく異なっている。人口減少対策として、人から来てもらうために魅力あるマップを作らなければいけないので、公民館事業で出されたことを参考に、人口減少対策に適したものを付け加えていくと理解してほしい。同じものが載ることもあるが、新たに人を寄せるためのものをどうしたらよいかを編集委員会で検討していくことになるかと理解している。私自身、どのようなものを載せたら人集めになるのかということは、はっきりとイメージがわからないが、それは地域協議会や編集委員会でいろいろ検討していくものと思っている。

【二野委員】

公民館事業は、どの時点でマップを作るという話になったのか。当然、お金の掛かる話だと思うが、それはどこから出ているのか。

【横尾委員】

公民館運営委員の話し合いの中で、三郷区のことをどれだけ知っているのかという話から始まった。そこから、三郷区の人ほどどれだけ地域のことを知っているのかということから、マップの作成作業を行ってきた。「灯台下（もと）暗し」で、三郷区に住んでいても知らない事実が意外とあった。公民館事業では、集まった人が頭を寄せ合い、「地域にはこういうものもある。」「ああいうものもあった。」と、参加者の口から出たものをマップに載せただけである。参加者から出されたことをお互いに認識することが目的であった。

【二野委員】

マップづくりはいつ頃から始めたのか。

【横尾委員】

今年からである。3回くらい集まって話し合った結果を基に作った。

【二野委員】

参加者はどのような方か。

【横尾委員】

全町内に公民館事業として回覧に載せて参加者を募った。そこで集まった人から出されたものなので抜けているものもあるかもしれないが、それは差し置いて、皆さんが知っているものを共有する目的で行ってきた。

【二野委員】

何部作って、どこからお金を出すのか。

【山口会長】

公民館事業の予算だと思う。地域協議会委員にも配る予定だと聞いている。

【二野委員】

地域協議会の中でこれだけ協議してきている中で、なぜ同じことをやっているのか疑問である。地域協議会でやってきたことに関しては、来年度の地域活動支援事業を活用して作ろうとしている。公民館事業と目的が被ってしまっていて、なぜ同じことを両方でやらなければいけないのか。

【山口会長】

公民館事業のマップには、歴史的なものしか載っていない。他に載せた方がよいものを付け加えて、よりよいものにしていけばよい。ただ、改選後の委員で審査した時に「これは採択にならない。」と言われたら、採択されない。それは改選後の委員の審査次第かと思う。

【池内委員】

それは違うのではないか。何のためにやってきたのか分からない。採択にならないものを議論しても仕方がない。

【山口会長】

編集委員会では採択されるように努めるが、その可能性もあるということ。改選後の委員がどのように判断するか分からないが、採択されるような提案をする。

【保坂副会長】

他の地区の公民館事業でも、自分達の地元のよさを見出そうとマップづくりをしている。公民館事業のマップは、三郷区の講座に集まった人達で再認識するために

頭を突き合わせて話し合っできたもの。地域協議会では、人口減少の抑制のために、他のところへ発信するための媒体として三郷区の魅力を発信するマップがあると一番よいとなった。ホームページなどいろいろなものがあるが、とりあえずマップを作ってみよう。そのマップには、三郷区の魅力もそうだが、例えば三郷区は県立中央病院、岩の原葡萄園、妙高山にも近いとか、災害が少ないとか、周りを見渡した時にどのような魅力があるのかをプラスする。交流人口や住んでみたいという人を増やすための1つの発信材料として、三郷区の魅力マップを作ってみようとなったのではないか。公民館事業のマップづくりとは目指しているものが全然違う。

【尾崎委員】

主旨が違うことは分かった。12月中にはできるとのことだが、地域協議会でも前々からこの話を進めていたわけである。公民館事業でマップを作っているという話は今言われても仕方がない。なぜその時点で話がなかったのか。

【山口会長】

これまでの会議の中で、公民館事業でもマップを作っているから、一緒になってよりよいものを作ろうということは話していた。公民館事業は一步進んでいるが、12月にできるものは公民館事業独自のものである。事業最終年度になるため、何かの形で残さなければいけないということでまとめたのだろう。公民館事業の担当者から参加者に配布されると聞いているが、全戸配布はしないと思う。

【横尾委員】

何度も話しているが、目的が全然違うということを理解してほしい。地域協議会でこれからやろうとしていることは、内向けもあるが、外向けに発信して人口減少対策に繋げていくという大きな目的がある。公民館事業は、皆で頭を寄せ合っ自分達の地域を知ろうという目的であり、全く目的が違う。なぜそのような無駄なことをという意見もあると思うが、地域協議会では人寄せ用の、人から見てもらうための魅力あるマップを作らなければいけない。

【池内委員】

公民館事業「元気の出るふるさと講座」の参加者は、地域のことをよくご存知で、魅力は全部分かっている方々だと思う。そのような方々が作っているのであれば、当然魅力はあると思う。人口減少のために、外に向けに三郷区の魅力はこれだけあ

ると発信できるものが載っていると思う。

【横尾委員】

三郷区の魅力マップ作成編集委員会では、マップの対象者や折り方をどうするかなどを検討している。公民館事業とは違うものができてくる。公民館事業で作成したマップが外向けに発信できるのであれば作る必要はないのかもしれないが、外向けに発信できるものではないだろう。

【堀川センター長】

地域協議会では先日、地域協議会委員で手分けして三郷区の魅力の調査を行った。本日やる予定の作業は、それをベースにして行ってもらいたい。たまたま公民館事業でも同じように魅力をまとめているので、地域協議会で挙げた中にないものがあれば、それを加えていく。あくまでも主は地域協議会で進めている取組の方であり、公民館事業のマップはそれにプラスアルファするための参考にしてはどうかという提案である。

【竹内副会長】

横尾委員のとおり、あくまでも目的が違う。我々が議論してきたことは人口減少についてであり、魅力マップの作成や空き家の調査は、皆で決めて皆で進めてきたことである。その集大成として魅力マップを仕上げていこうということは、皆さんで議論して決めた話である。公民館事業でもマップ作りをやっているが、同じことではない。あくまでも経緯が違うものなので、地域協議会としての仕上げをしていかないといけない。南部まちづくりセンターも加わってもらって地域協議会として動いていけないといけない。最終的な目標は魅力マップ作成であり、それに向けて最後まで仕上げていきたいと思っている。11月5日の研修会の議事録も配布されている。皆さん読んできたかと思うが、その成果も全員で共有していきたい。

【山口会長】

- ・資料No.5のとおり進めることでよいかを諮り、委員全員の了承を得る

これから魅力マップの内容検討に入る。協議は2班に分かれてグループ討議形式で行う。資料No.6に沿って内容を埋めていくように進めてほしい。

【堀川センター長】

資料No.6については、グループに分かれた後に説明する。

【山口会長】

今回を含め、グループ討議の時間を3回設ける予定である。今回は、資料No.6の「魅力マップに掲載する材料の洗い出し」のうち、「三郷区のよいところ」を中心に行う。

—2班に分かれてグループ討議—

【山口会長】

各班に討議結果の発表を求める。

【竹内副会長】

A班の発表をする。三郷区のよいところということで、追加するものをピックアップした。

「モノ（歴史・風景）」としては、東稲塚神社に中江用水のいわれの看板がある。これは私も知らなかったのを見に行きたいと思う。あとは、郵便局がある。コンビニもある。西松野木に地蔵がある。これもどのような地蔵か分からないので、調べたい。

「ヒト・雰囲気」だが、田園地帯なのでカエルの音色が素晴らしい。冬になるとハクチョウが飛来する。西松野木には伊藤造園がある。初代中頸城郡長がいた。人の面倒見がいい。上越市長が2人出ている。市議会議員が大勢出ている。三郷村初代村長の浅野氏がいた。

「コト（イベント）」は、三郷夏祭り、三郷地区大運動会、ウインターフェスティバル、健康ウォーク。あとは三郷区にはゴルフ同好会があり、年3回のコンペをやっている。これからの大イベントとして、圃場整備が行われる。

「その他」としては、農協のデイサービスがある。三郷小学校、三郷保育園があって子育て環境がよい。ENJOY35のさんごう夏っ子クラブ事業で子ども達が活発に活動している。あとはバイパスが近いことも含めて交通網がすごくよい。そのため、岩の原葡萄園や菅原神社など近隣へのアクセスがよい。安全安心で災害が少ない地域である。関川、櫛池川、別所川に囲まれていながら水害が少ない。雪がそこそこ降るので雪遊びができる。遊ぶところは少ないが、雪遊びなど子ども達が

考えて遊ぶことができる。上越妙高駅に近いということもよい条件ではないか。あとは、桜町の団地がある。まだ空いている区画があるので誘致できるのではないか。下水道等が完備されているので、環境面もよい。板倉区のゑしんの里にも近い。野尻湖の花火が見える。三郷区は、直江津の祇園の花火、清里区の花火、池の平のダイナマイトカーニバルも見えるので、周囲の花火が見えるよいエリアである。

【保坂副会長】

尾崎委員から話があったが、辰尾新田では以前、縄文式土器がたくさん拾えたとか、三郷小学校の段差になっている場所は港の跡だったとか、歴史的なところがたくさんある。昔、旧三郷村役場の前に大きな石があり、そこにヒスイがたくさん入っていたが、いつの間にかそれがなくなってしまっていて、あれはどうしたのだろうという話も出てきた。

景色としては、ハクチョウの飛来があり、周囲もよく見渡せて、火打山や妙高山の眺めが素晴らしいところだと。そういった景色を見るためにベンチを置くと、天気のいい日にはちょっと散歩をしながら、そこに座って周りを眺められるようなところができるという話もあった。あとは、過去に災害がなくてよい場所だという話も出た。

「ヒト・雰囲気」については、三郷区から過去に上越市長が2人出たこと。挨拶は、昔と比べるとだんだん減ってきてはいるが、他の地域から比べるとよいのではないか。横の繋がりがあるのではないか。何かあった時に隣近所で声を掛けられる人間関係はあるのではないかという話も出た。

「コト（イベント）」については、町内ごとに昔から祭りをやっていたり、三郷区全体では地域で盛り上がる小学校と連携した三郷地区大運動会があったり、三郷夏祭りでは皆で楽しんでいる。

「その他」としては、岩の原葡萄園が近い。新幹線の駅も近い。6～7キロメートルくらいの圏内にいろいろな施設があり、とても住みやすいのではないか。あとは坊ヶ池が近い、郵便局があったりデイホームがあったりする面もよいという話があった。

【山口会長】

今回の会議では、本日の続きから協議を進めてほしい。

—次第5 事務連絡—

【山口会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・次回会議日程

第7回地域協議会：1月24日（金）午後6時30分～ 三郷地区公民館

- ・配布物

事務事業評価の結果について

新年祝賀会の開催について（お知らせ）

【山口会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。